

できちゃった就職で工賃が6倍？

～誰だって働ける支援を～

コーディネーター NHK 小宮英美

「もしも自分の給料が6倍になったら、、、」なんて、想像するだけ夢みたいな話ですが、実際に実現できるなら、素晴らしいですよ。このセッションでは、そんな夢を簡単に実現してしまった福岡県の石田省吾さんと、そのお母さん、思いつき雇用主の病院長有吉通泰さんが登場します。石田さんはダウン症で近所の福祉施設のクッキー工場に通っていました。工賃は月に1万円でした。その頃、障害者雇用の報道にかかわっていた私が、以前から親しかった病院長の有吉さんに、「先生も知的障害の方を雇ってみたら」と話をしたのがきっかけです。省吾さんは小さい時から有吉さんの患者さんだったので、有吉さんが病院で働きたいか聞いてみたら、「働きたい」ということになったのです。ジョブコーチのお世話になり、病院の掃除を担当することになりましたが、省吾さんはすぐに職場に適応。週に4日、1日6時間、最低賃金で働いて、お給料は6万円になりました。障害年金と合わせれば自活も夢ではありません。貯金は掃除のチェックシートを作るためにパソコンを買うために使いたいのだそうです。「自分が省吾のためにこんなことをしてやれる、なんて考えたこともなかった」と有吉さん。これで「私たちが死んでも安心」とお母さん。最近、省吾さんの夢は膨らみ、「結婚したい」とのこと。ジョブコーチのお世話にはなりましたが、あまりに簡単に出来てしまったので、みんなビックリ。やって見さえすれば省吾さんみたいに出来る人って、全国にたくさんいるんじゃない？ 支援者は、この事実をどう受け止めればいいのかでしょう。

そうは言っても、そんなに簡単に就労できる人ばかりではない、そんな声が聞こえてきます。そういう方たちのためには、愛知県の西畠義浩さんが登場します。西畠さんが働くラーメン屋さんを経営している社会福祉法人の理事長は、皆さんご存知の自立支援法切り込み隊長の戸枝陽基さん。西畠さんは、重度の自閉症。でも丁寧に時間をかけてカードも使って仕事を覚え、工賃は3万円。生活介護のサービスを受けているのに、こんな給料をもらっているのです。だからグループホームに住んで生活介護のサービスを利用して、1割負担を払っても、手元にはお金が残り、ボーリングを楽しんだりしています。週末には両親の家も訪ねます。重度の生活介護の人でも、自分の稼ぎで自立できるのです。

こんな例を、ご本人、当事者登場で、ご紹介します。皆さん一緒に元気になりましょう。